学校番号	411

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	（学）看護系数学演習	単位数	3単位	年次	3年次
使用教科書	なし						
副教材等	新課程リンク数学演習Ⅰ･A　受験編　a+b						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・必ず予習をすること。数学Ⅰ・Aの教科書や問題集などを参考に，まず自分で解いてみましょう。ただ答えを求めるだけでなく，途中式や考え方も書くようにしましょう。最後まであきらめずに取り組みましょう。
・定期考査前に提出する課題は，計画的に早めに準備しておくこと。
・自身の入試の日程を確認しながら，授業をおろそかにしないよう両立できるようにすること。
・単なる知識の習得だけではなく、多角的なものの見方，柔軟な発想力，瞬時に判断できる能力をはぐくみ，社会に出たときに活用できる問題解決能力を養ってください。
・医療界で信頼され活躍できる人材に成長していくことを希望します。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
　１年次に履修した数学Ⅰ・Aの基本事項の確認をし、基礎な知識を身につける。
【思考力、判断力、表現力等】
　基礎事項を元にいろいろなバリエーションの演習問題を解くことにより、進路実現に必要でかつ社会に出たのちも困らない思考力や判断力、応用力を身につける。
【学びに向かう力、人間性等】
関心を持ち、自ら進んで考え取り組もうとしている。また、協力して問題に取り組む姿勢を持ちいろいろな問題場面で活用しよとしている。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度

観点の趣旨	数と式，2 次関数，図形と計量およびデータの分析における基本的な概念,原理・法則などを確認し，基礎的な知識の定着を確認する。場合の数と確率，図形の性質または整数の性質において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を定着させる。そして，応用的問題を解く能力を身につけている。	数と式，2 次関数，図形と計量，データの分析や，場合の数と確率，図形の性質または整数の性質における事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身につけている。 そして，発展・応用問題に対応できる思考・判断力を身につけている。	数と式，2 次関数，図形と計量，データの分析や，場合の数と確率，図形の性質または整数の性質における論理や体系に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。多くの発展・応用問題を解き、受験に対応しようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	数と式	・整式の展開 ・整式の因数分解 ・根号を含む式の計算 ・1 次不等式 ・絶対値を含む方程式・不等式	a:式の見方や根号を含む式の四則計算について理解している。絶対値の記号や不等式の解の意味について理解している。 b:整式の計算においても，数の計算と同様な法則(交換，結合，分配)が成り立つと，展開公式を導く過程を考察することができる。絶対値の記号の意味を理解し，絶対値の値や性質を考察することができる。入試問題などの応用問題を解くことができる。 c:整式の展開や因数分解，根号を含む数の計算などにおいて，その法則を活用しようとする。絶対値や不等式の性質に関心をもち，数や式の大小比較の際に活用しようとする。	発問評価 課題提出 小テスト 定期考査	発問評価 課題提出 小テスト 定期考査	授業態度 発問評価 課題提出
	2次関数	・2 次関数のグラフ ・2 次関数の最大・最小 ・2 次方程式 ・2 次関数のグラフと x 軸の位置関係 ・2 次不等式	a: 2 次関数の概念について理解している。定義域に制限がある場合について，2 次関数の最大値・最小値を求めることができる。放物線と x 軸の位置関係を，2 次方程式の解に帰着させて考えられることを理解している。 b: 定義域や頂点の座標が変化するときの最大値・最小値を視覚的にとらえて，場合分けして求めることができる。不等式の解をグラフの上下関係からとらえ，2 次不等式の解法を考察することができる。 c: 関数関係をグラフで表すと，関数の性質が直観的にとらえやすくなることに気づき，そのことを利用して，いろいろな関数の特徴を調べてみようとする。	発問評価 課題提出 小テスト 定期考査	発問評価 課題提出 小テスト 定期考査	授業態度 発問評価 課題提出

	場合の数と確率	・集合 ・場合の数 ・順列 ・組合せ ・事象と確率 ・確率の基本性質 ・独立な試行と確率 ・条件付き確率	a 基本的な場合の数や順列，組合せを計算できる。場合の数を用いて，基本的な確率の計算ができる。 b 文章題を理解し，順列や組合せの違いを理解し，場合の数および確率用いて求めることができる。発展・応用問題を解く力を身につける。 c 場合の数および確率に関心をもち、日常生活などに積極的に活用しようとしている。	発問評価 課題提出 小テスト 定期考査	発問評価 課題提出 小テスト 定期考査	授業態度 発問評価 課題提出
2学期	図形と計量	・三角比 ・三角比の相互関係 ・正弦定理 ・余弦定理 ・正弦定理と余弦定理の応用 ・三角形の面積 ・空間図形への応用	a: 角を鈍角まで拡張した場合の三角比について理解している。正弦定理や余弦定理を利用した図形の計量について理解している。 b: 三角比が角の大きさのみによって定まる値であることを踏まえ，測量などの場面で活用することができる。平面だけでなく空間的に図形をとらえ，三角比を利用することができる。発展・応用問題を解く力を身につける。 c: 三角比に関心をもち，図形の計量に活用しようとする。正弦定理や余弦定理などが，図形の計量の考察に有用であることに気付き，活用しようとする。	発問評価 課題提出 小テスト 定期考査	発問評価 課題提出 小テスト 定期考査	授業態度 発問評価 課題提出
	図形の性質	・三角形の辺の比 ・三角形の外心・内心・重心 ・チェバの定理・メネラウスの定理 ・三角形の辺の大小関係 ・円に内接する四角形 ・円と直線 ・2つの円	a: 基本的な図形の性質の求値問題を解くことができる。 b: 文章から図形を描き、求値問題を解くことができる。発展・応用問題を解く力を身につける。 c: 基本的な図形の性質について関心をもち，調べてみようとする。	発問評価 課題提出 小テスト 定期考査	発問評価 課題提出 小テスト 定期考査	授業態度 発問評価 課題提出
	集合と命題	・集合 ・命題と条件 ・命題とその逆・対偶・裏 ・命題と証明	a: 命題と条件に関する基本的な用語や記号を理解している。 b: 集合間の関係式をいろいろな場面に適用して考察することができる。入試問題などの応用問題を解く力を身につける。 c: 筋道を立てた考え方の必要性を感じとり，数学的な論証に関心をもつ。	発問評価 課題提出 小テスト 定期考査	発問評価 課題提出 小テスト 定期考査	授業態度 発問評価 課題提出
	データの分析	・データの整理 ・データの代表値 ・データの散らばりと四分位数 ・分散と標準偏差 ・2つの変量の間の関係 ・仮説検定の考え方	a: 範囲，偏差，分散，標準偏差の意味を理解している。 b: 分散，標準偏差，共分散，相関係数などを読み取り，データの比較・分析ができる。発展・応用問題を解く力を身につける。 c: データの散らばりについて関心をもち，四分位範囲や標準偏差について調べようとする。	発問評価 課題提出 小テスト 定期考査	発問評価 課題提出 小テスト 定期考査	授業態度 発問評価 課題提出
3学期	数学と人間の活動	・約数と倍数 ・等式を満たす整数 x, y の組 ・最大公約数・最小公倍数 ・最大公約数・最小公倍数の性質 ・整数の割り算と商・余り ・和、差、積の余り ・ユークリッドの互除法 ・1次不定方程式	a: 基本的な整数の性質を正しく理解している。 b: 文章題から式を導き、求値問題を解くことができる。発展・応用問題を解く力を身につける。 c: 基本的な整数の性質について関心をもち，調べてみようとする。	発問評価 課題提出 小テスト 定期考査	発問評価 課題提出 小テスト 定期考査	授業態度 発問評価 課題提出

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態

度